

# コロナ禍における宮崎県内の放課後児童クラブの 現状に関する一研究

篠原久枝<sup>1)</sup> 永吉莉子<sup>2)</sup>

A Study on the Current State of After-school Children's Clubs in Miyazaki  
during the COVID-19 Pandemic.

Hisae SHINOHARA<sup>1)</sup> and Riko NAGAYOSHI<sup>2)</sup>

## 要 旨

新型コロナウイルス感染症感染拡大による第一回緊急事態宣言下では、学校の休校による子ども達の居場所問題が浮き彫りとなり、この時に子ども達の日常を支えたのが放課後児童クラブであった。そこで本研究では、コロナ禍における宮崎県内2市の放課後児童クラブの現状や課題について検討した。両市とも利用者数は、第一波では大きく減少していた。「お弁当・おやつ」、「工作活動」、「レクリエーション」などの活動は、感染対策に留意しつつ楽しい時間の共有となる工夫をして継続していた。子ども達の様子については「イライラしている子」、「眠そう・だるそうな子」、「子ども同士のトラブル」が増加したとの回答が3割に見みられ、メンタルケアの必要性が窺えた。今後必要なこととしては「屋外遊びの推進」、「支援員の増員」、「資金援助」などがあげられたが、これからも学校、地域と連携して子ども達の居場所としての機能が充実していくことを期待する。

キーワード：放課後児童クラブ (after-school children's clubs), コロナ禍 (COVID-19 pandemic)

## 1. 緒 言

放課後児童クラブ（学童保育）とは、「放課後児童健全育成事業」の通称であり、児童福祉法（1947年）第6条の3第2項において、「小学校に就学している児童であって、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものに、授業の終了後に児童厚生施設等の施設を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業」として規定されている。

1994年に策定された「エンゼルプラン」の一環として、当時の厚生省、大蔵省、自治省が

---

<sup>1)</sup> 宮崎大学教育学部, <sup>2)</sup> えびの市立加久藤小学校

「緊急保育対策5カ年事業」を打ち出し、児童クラブ設置を1999年度までに4,520か所から9,000か所へ増やすという数値目標が初めて提示された。そして、1997年「児童福祉法等の一部改正に関する法律」が成立し、学童保育が「放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）」として法制化された。2007年には厚生労働省より「放課後児童クラブガイドライン」が発出、2012年8月に策定された子ども・子育て関連3法に基づく「子ども・子育て支援新制度」のポイントの一つとして放課後児童クラブなどの「地域子ども・子育て支援事業の充実」もあげられた<sup>1)</sup>。2014年には、共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、厚生労働省と文部科学省の共同による「放課後子ども総合プラン」が策定された。2015年には「放課後児童クラブ運営指針」が交付され、2018年には「新・放課後子ども総合プラン」<sup>2)</sup>が発出された。このプランの2019～2023年の目標として「放課後児童クラブについて、2021年度末までに約25万人分を整備し、待機児童解消を目指し、その後も女性就業率の上昇を踏まえ2023年度末までに計約30万人分の受け皿を整備すること」、「全ての小学校区で、両事業を一体的に又は連携して実施し、うち小学校内で一体型として1万箇所以上で実施することを目指す」、「両事業を新たに整備等する場合には、学校施設を徹底的に活用することとし、新たに開設する放課後児童クラブの約80%を小学校内で実施することを目指す」、「子どもの主体性を尊重し、子どもの健全な育成を図る放課後児童クラブの役割を徹底し、子どもの自主性、社会性等のより一層の向上を図る」ことが掲げられた。厚生労働省による「放課後児童健全育成事業の実施状況」によると登録児童数及びクラブ数ともに年々増加傾向にあり、2020年の調査では登録児童数が対前年11,701人増加の1,311,008人、クラブ数は対前年744カ所増の26,625カ所となっていることが報告されている<sup>3)</sup>。

しかしながら、2020年2月からの新型コロナウイルス感染拡大により、子ども達の暮らしが大きく変化した。第一回緊急事態宣言下（2020年3月）では、学校の休校に伴い子ども達の居場所の問題が浮き彫りとなった。その中で、子どもや子どもを持つ家庭の日常を支えたのは放課後児童クラブであった。自治体の学童保育に関する対応方針についての調査が行われた結果、「保護者への利用自粛要請」は富山市や京都市など54市区、「原則休所」が岐阜市や熊本市など10市、「一部施設を休所」や、保護者に勤務先との調整を促すなどして対応した自治体が9市であった。「原則開所」としたのは宮崎市や長野市など12市にとどまった<sup>4)</sup>。このような状況の中で課題となったのが、密の問題と子どもたちのストレスの問題である。密の問題に関してはコロナ以前から、1クラスあたりの児童数の基準を「おおむね40人以下」としていたが、全国学童保育連絡協議会が行った実態調査によれば、2020年12月で41人以上が12,873クラス（38.2%）にのぼり、このうち101人以上も276クラス（0.8%）あったことを報告している<sup>5)</sup>。

ストレスに関しては、国立生育医療研究センターの「コロナ×子どもアンケート第1回調査報告書（2020年5月）」において、心の状態として、小学生以上の75%に何らかのストレス反応・症状がみられたことが報告されている<sup>6)</sup>。また、「第6回調査（2021年10月）」でも、全体の70%になんらかのストレス反応・症状がみられたことが報告されている<sup>7)</sup>。これらの結果からコロナが流行し始めてから現在まで多くの子ども達がストレスを抱えていることが考えられる。

宮崎県内では、地域子ども・子育て支援授業13事業の中の一つとして放課後児童クラブ事業が位置づけられ、県内26市町村中22市町村で実施されている<sup>8)</sup>。そこで本研究では、県内

2市の放課後児童クラブを対象に、コロナ禍における放課後児童クラブ内での密を防ぐ工夫や活動、子どもたちの変化とその対策等についてアンケート調査を行い、現状と課題について検討した。

## 2. 方法

### (1) 調査対象・方法

2021年11月に宮崎市と都城市の放課後児童クラブの責任者を対象に質問紙によるアンケート調査を行った。調査内容は、1) コロナで禍での活動状況、2) 子どもの様子の変化や課題、4) 運営上の課題等である。調査方法は、宮崎市については、生涯学習支援課の方から63か所の児童クラブにメールで配信後、紙媒体で回収した。都城市については73か所の各児童クラブに郵送でアンケートを配布・回収した。回収数（回収率）は宮崎市が63部（100.0%）、都城市が41部（56.2%）であった。設置形態は、公設公営が13か所、公設民営が59か所、民設民営が16か所、不明が16か所であった。一部のクラブにおいては、インタビュー調査も行った。

### (2) 倫理的配慮

本調査では、調査の趣旨と個人情報保護等の倫理的配慮について、対面ならびに書面で説明し、回答をもって同意とみなした。

### (3) 統計処理

統計処理には、IBM SPSS Statistics Ver.25.0を用い、 $\chi^2$ 検定を行った（有意水準5%）。

## 3. 結果

### (1) 入所児童数の規模別クラブ数と平均の登録支援員数

調査対象の放課後児童クラブの入所児童数の規模別クラブ数ならびに平均支援員数を表1に示した。児童数の規模は、「41人以上」が宮崎市では40カ所（63.5%）、都城市で11カ所（18.1%）であり、宮崎市は全国の38%を大きく上回っていた。

表1 入所児童数の規模別クラブ数と平均支援員数

入所児童数の規模	全体 (%)	宮崎市 (%)	都城市 (%)	平均支援員数 (人)
40人以下	53 (51.0%)	23 (36.5%)	30 (73.2%)	4.8
41人～100人	32 (30.8%)	25 (39.7%)	7 (17.1%)	8.1
101人以上	19 (18.3%)	15 (23.8%)	4 (9.8%)	10.8

### (2) 利用者数の変化

今回の調査は、第五波が収束した時期であった。やはり、第一波の時は約半数のクラブが「利用者数は減った」と回答していた。その後、第二波からは所在地の感染状況に応じて、「減った」と回答する児童クラブが1～3割みられたが、「増えた」と回答するクラブもみられた。

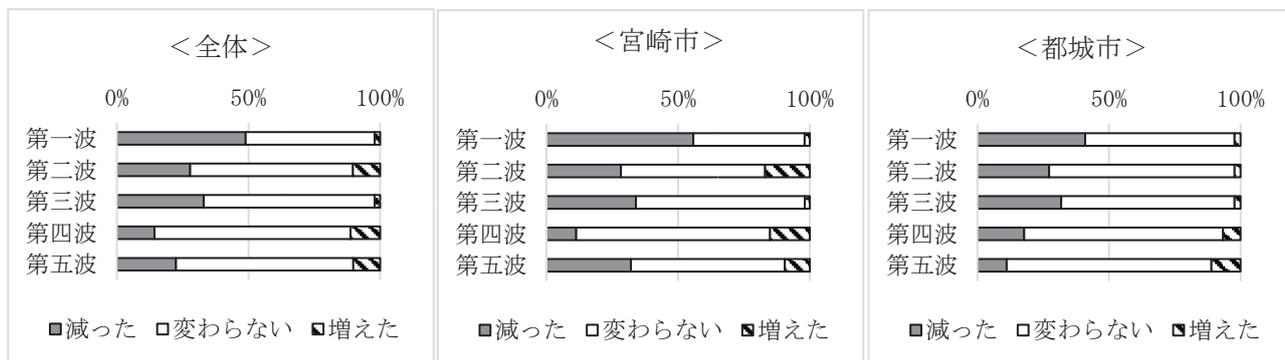


図 1 利用者数の変化

(3) 各種活動の実施状況

各クラブの各種活動や行事の実施状況の結果を図2に示した。「①お弁当」は、宮崎市では「もともと行っていない」はわずか3.6%であり、ほとんどのクラブで継続して行われていた。都城市も「もともと行っていない」は13.3%、「中止している」は2.2%でありほとんどのクラブで継続して行われていた。「②おやつ」については、運営指針の中では「子どもにとって放課後の時間帯に栄養や活力面から必要とされるおやつを適切に提供する」と規定されている。「もともと行っていない」が宮崎市では32.1%、都城市では2.2%であったが、それ以外ではほぼ継続して行われていた。「③工作活動」は、宮崎市も都城市も「中止したこともあった」という回答が約2割あったが、ほぼ継続されていた。「④レクリエーション」については、いまだに「中止している」が、宮崎市では2割、都城市では1割、「中止したこともあった」が宮崎市では約2割、都城市では4割あったが、継続されている割合が高かった。「⑤農作業」は両市とも「もともと行われていない」割合が高かったが、都城市では約2割が継続して行われていた。「⑥遠足」は、宮崎市では「もともと行われていない」が約3割、「中止している」が1割であった。都城市では「もともと行われていない」が約8割、「中止している」が1割であった。「⑦お誕生日会」も宮崎市では「もともと行われていない」が約8割、「継続している」が1割であった。都城市では「もともと行われていない」が約3.5割、「継続している」が5割であった。「⑧対面式やお別れ会」は、宮崎市では「もともと行われていない」が約6割、「継続している」が2割であった。都城市では「もともと行われていない」が約2割、「継続している」が3割であった。

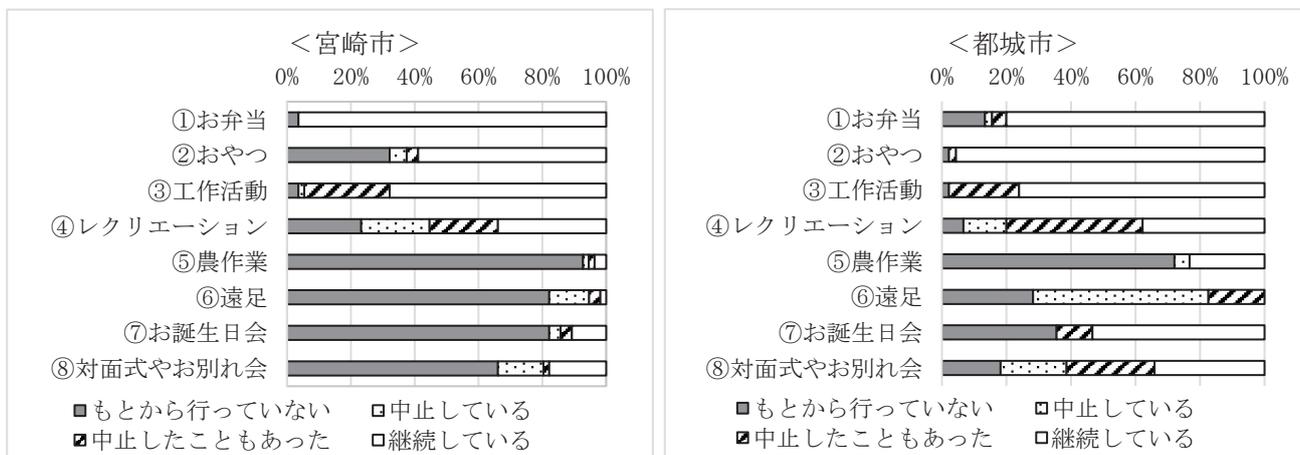


図 2 各種活動の実施状況

(4) コロナ禍での活動の工夫

各クラブから、コロナ禍の活動の工夫として自由記述で得らところ、「遊び」と「おやつ・お弁当」に関する回答が大きな割合を占めていた（表2）。

表2 コロナ禍での活動の工夫

遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内のレクリエーションを減らし、体を動かすことのできる外でのレクリエーションを増やしている(25)</li> <li>・外での活動を増やした(12)</li> <li>・工作活動を増やした(6)</li> <li>・他の施設を利用し、遊ぶようにした(6)</li> <li>・一人遊びができるおもちゃや用具を増やした(4)</li> <li>・密にならないゲームやおもちゃを取り入れた(4)</li> <li>・おもちゃの消毒を徹底した(3)</li> <li>・定期的におもちゃの交換を行う(2)</li> <li>・DVDを見るようにしている(2)</li> <li>・例年保護者を招いてのレクリエーションがあったが、子どもだけの開催とした(2)</li> <li>・読書活動を増やした(2)</li> <li>・室内で体を動かす遊びを取り入れた(2)</li> <li>・遊びの人数を制限した(1)</li> <li>・室内と外で半分に分かれて遊ぶ(1)</li> <li>・室内でも体を動かすようにした(1)</li> <li>・エクササイズを行うようにした(1)</li> </ul>
おやつ・お弁当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当は黙食で行っているため、音楽を流すようにしている(16)</li> <li>・黙食を行っている(4)</li> <li>・外で昼食やおやつを食べる(3)</li> <li>・黙食を行っているため子どもの好きなおかしを買ってくるようにしている(2)</li> <li>・出来るだけ個装のおかしを出している(1)</li> <li>・少人数で食事をするようにしている(1)</li> <li>・対面で食べないようにしている(1)</li> <li>・黙食を行っているのでDVDを見るようにしている(1)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスク着用の徹底(4)</li> <li>・換気の徹底(3)</li> <li>・消毒の徹底(3)</li> <li>・場所を広く使う工夫(2)</li> <li>・机の配置の工夫(2)</li> <li>・仕切り板の設置(1)</li> <li>・コロナの中でのルールを守るように話す(1)</li> <li>・水分補給をこまめに補給する(1)</li> <li>・人数を2, 3班に分けている(1)</li> <li>・感染対策を万全に行い、宿泊体験を実施した(1)</li> </ul>

「遊び」に関しては、「体を動かす工夫」が多く見られた一方で、「DVD・読書」などの室内での活動の増加もみられた。また、「他の施設を利用」としては、「子ども園のプールを借りた」、「室内は狭いので体育館等を使用している」、「児童センターのイベントにも参加するようになっている」という回答が得られ、他の機関との連携による十分な遊び場の確保が行われていた。

「おやつ・お弁当」に関しては、「黙食」を徹底する一方で、「音楽やDVDを流す」、「外で食べる」、「好きなお菓子を出す」など、子ども達にとって楽しい時間となる工夫がされていた。インタビュー調査からも「コロナがひどい時期は黙食を徹底していた。でも楽しい時間をこの

ようにするのはかわいそうだと感じ、現在は黙食を呼び掛けながらも、距離を取り、口に入れている時は絶対に話さないということに気を付けて、食事を行っている」との話を伺い、食事の楽しさを保とうと工夫している姿がみられた。

### (5) コロナ禍での子ども達の様子

2020年緊急事態宣言直後の3月と2021年11月での子どもの様子について5件法で尋ねた結果を図3に示す。時期や地域による差はみられず、いずれの時期においても、「少し増えた」と「増えた」を併せると、「①イライラしている子」、「③眠そうだるそうな子」、「④集中力が続かない子」、「⑧子ども同士のトラブル」などが3割以上のクラブでみられた。

また、「⑥iPadばかりを使用する子」に関しては「少し増えた・増えた」クラブがある一方で、「使用無し」と回答したクラブも2割以上みられた。

インタビュー調査では「Wi-Fiを繋げるのがなかなか難しいため、クラブではせず、家もしくは学校でする形をとっている」との回答もあった。現在、GIGAスクール構想により端末利用の宿題も増えており、今後児童クラブにおけるWi-Fiの環境の整備も課題であろう。

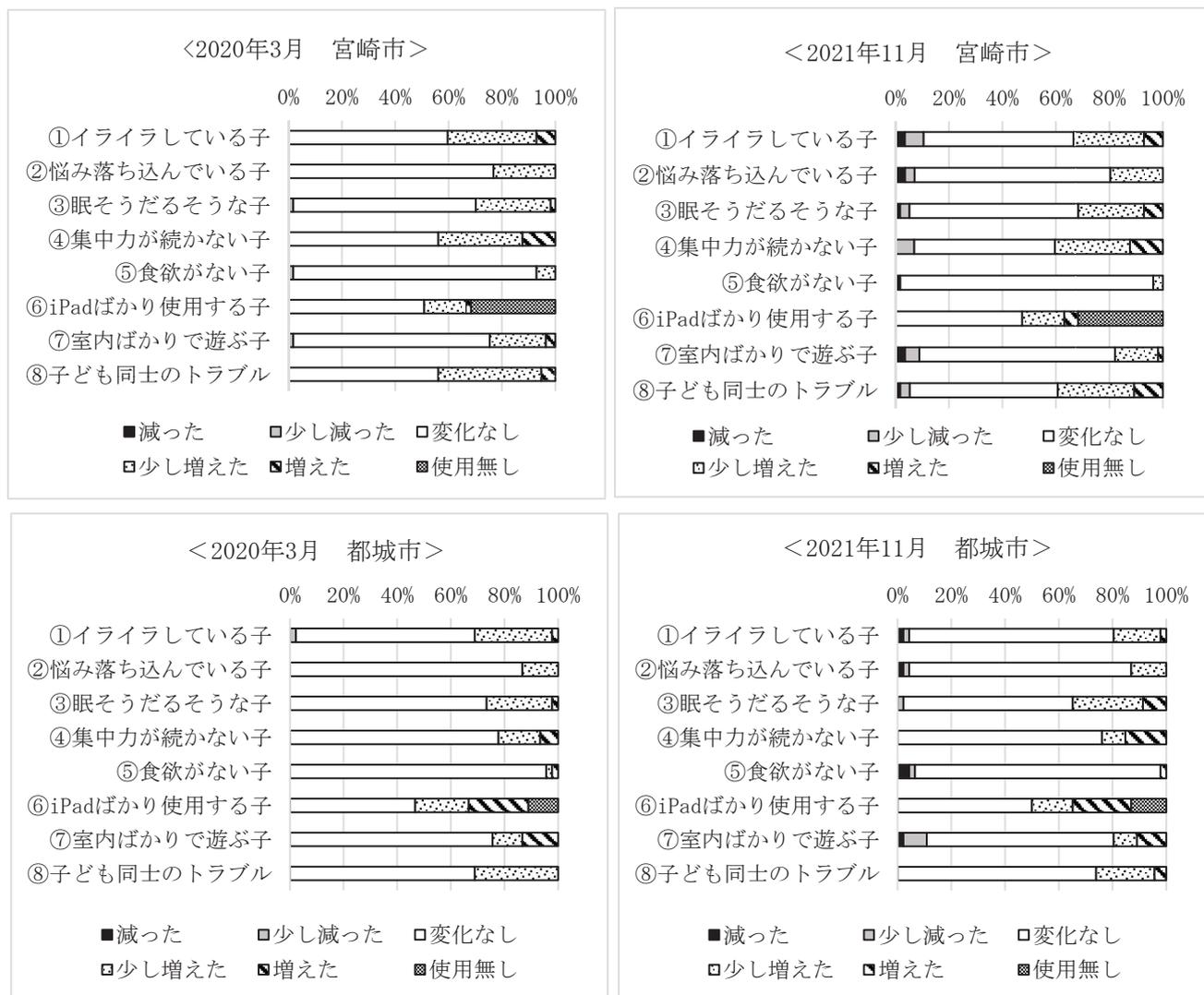


図3 コロナ禍での子ども達の様子

気になる子ども達の様子について、自由記述で得られた回答を表3に示す。一番多かったのが「体力」の「子どもの体力が落ちているように感じる」で34件の回答があった。このことは、「遊び」であげられた、「外に出たがらない」や体型の「太った子が増えた」とも関連するものであろう。令和3年度全国体力・運動能力調査の総合得点は令和1年から3年にかけて大きく下がっていることが報告されおり<sup>9)</sup>、「外遊びを増やす」ことが今後子どもたちの体力維持のために大切なことになってくると思われる。

次いで「学力」で「学力の低下」や「学習意欲の低下」があげられた。これは長期間の学校の休校や短縮授業によって、勉強時間が減少したことによるものであろう。

「コミュニケーション」能力の低下の背景には、「ゲーム依存」や「一人で行動する子」の増加、さらには「常にイライラしている」、「暴言・暴力がみられる」など、コロナ禍の生活様式の変化による心の状態を反映しているものと思われる。「マスク着用」に関する回答も多くみられた。

このような状況を受けて、学校や家庭からの相談件数がコロナ禍以前と比べどのように変化したか尋ねた結果、「少し増えた」、「増えた」と回答したクラブが約3割にみられた(データ未掲載)。

表3 気になる子ども達の様子(自由記述)

体力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの体力が落ちているように感じる(34)</li> <li>・外遊びを増やしたため足が速くなった(1)</li> <li>・学校で昼休みを無くしていた間は体力を持て余していた(1)</li> </ul>
学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力低下がみられる(5)</li> <li>・授業の遅れが気になる(1)</li> <li>・学習意欲の低下(1)</li> </ul>
遊び ・ ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外に出たがらない(1)</li> <li>・室内遊びばかりしたがる(1)</li> <li>・外遊びを知らない(1)</li> <li>・外遊びをしたがる子が増えた(1)</li> <li>・10月頃から戸外遊びをする子が増えた(1)</li> <li>・ゲームへの依存(1)</li> <li>・利用を控えていた時期にゲーム時間が増えていた(1)</li> </ul>
体型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太った子が増えた(2)</li> </ul>
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と遊ばず、一人で行動する子が増えた(2)</li> <li>・増えてはいないが、一人で行動する子が気になる(1)</li> <li>・コミュニケーションの取り方が下手になった(1)</li> <li>・幼児性の残る子が増えた(1)</li> <li>・思い通りにならないと大声で泣く(1)</li> <li>・もめ事が多くなった(1)</li> </ul>
言動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暴言・暴力がみられる(3)</li> <li>・言葉遣いが乱れている(1)</li> </ul>
マスク着用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスク着用の声掛けが必要(1)</li> <li>・マスクをきちんとつけていない(2)</li> <li>・マスクを外す子が増えた(1)</li> <li>・マスクによる息苦しさが心配(1)</li> <li>・顔のサイズに合っていない(1)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留守番に慣れ、保護者の帰宅まで家庭で過ごせるようになった子が見られた(1)</li> <li>・テレビやネット関連の話が増えた(1)</li> <li>・落ち着きがなく、情緒が不安定(1)</li> <li>・コロナや消毒に対して過剰に反応する児童がみられた(1)</li> <li>・疲れやすい(1)</li> <li>・常にイライラしている(1)</li> <li>・習い事が中止になり気落ちしている(1)</li> <li>・休校になり、学童を利用できることを逆に喜んでいる(1)</li> </ul>

### (6) 機関別に必要と思うこと

放課後児童クラブ、小学校、専門家の三つの機関で必要だと感じていることについて尋ねた(図4)。児童クラブでは「①メンタルケア」、「⑥体を動かす遊びの推進」が必要であるという回答が多く、小学校ではどの項目も2割を超えていた。その中で特に多かったのは「②生活習慣の改善に向けた指導」、「⑦虐待発見のためのチェックシートの配布」であり、3割を超えていた。専門家に必要なものとしては「①メンタルケア」、「⑦虐待発見のためのチェックシートの配布」、「⑧貧困家庭への援助」が児童クラブと比較すると多く、専門家には子どもたちの家庭にまで踏み込んだ支援を必要としていることが窺えた。

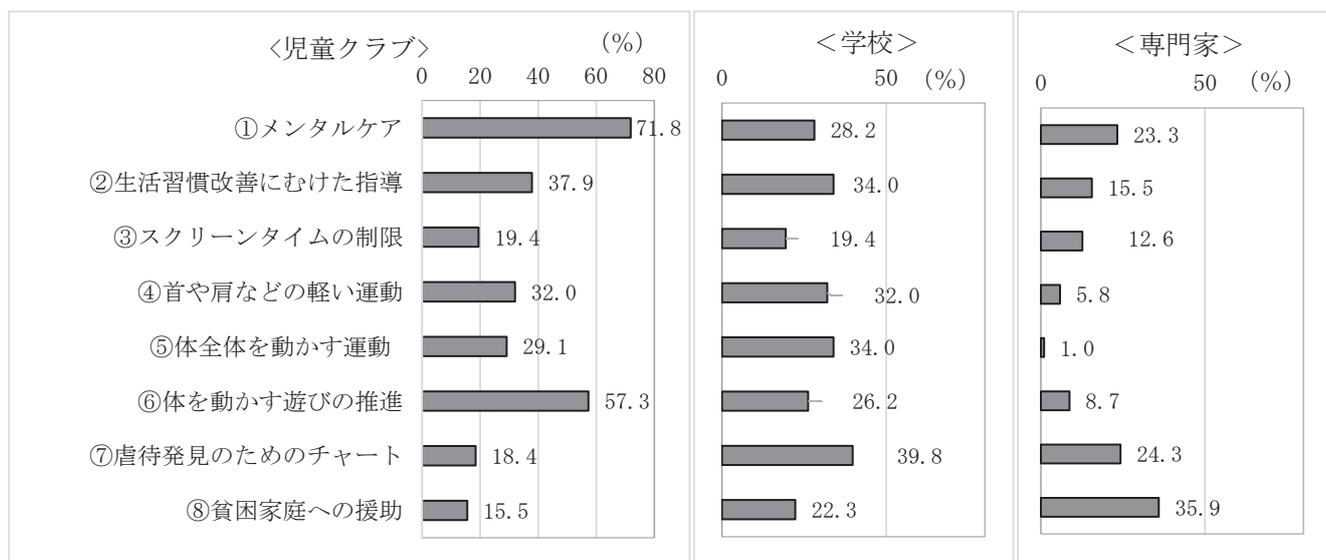


図4 機関別に必要と思うこと

### (7) 放課後児童クラブ運営上の課題と今後必要なこと

コロナ禍以前と比べて、児童クラブの運営上の課題9項目について尋ねた結果、両市に差はなく、「②子どもの密」が約8割、「③食事中的会話」が約5割などコロナ禍特有の子どもに関する課題が最も多かった。次いで「④支援員の不足」、「⑤長時間労働」などスタッフ側の課題が5割以上であった。さらに「⑧隔離スペース無し」、「⑨相談部屋無し」など施設環境に関する課題が約4割であった(図5)。

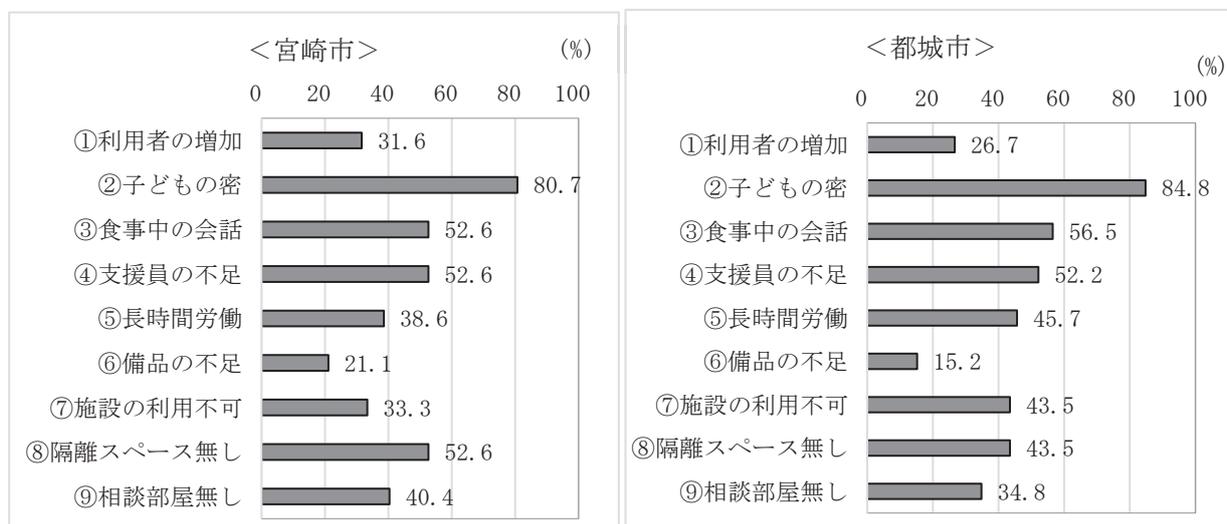


図5 運営上の課題

今後、運営上に必要なこと9項目について「必要・希望する・必要ない」の3件法で尋ねた(図6)。結果は「必要・希望する」のみを提示した。両市ともに「必要」と回答した割合が高かったのは、「①利用者の制限」、「②屋外遊びの推進」、「④支援員を増やす」、「⑦備品を購入するための資金援助」であり、約5割の回答であった。比較的「希望する」回答が多かったのは、近年、図書館に導入されている図書除菌機を想定した「⑧紙媒体を消毒する機械の導入」であった。一方で、「④iPadを利用し間隔をとって遊ぶ」は「必要なし」の回答が大半であった。

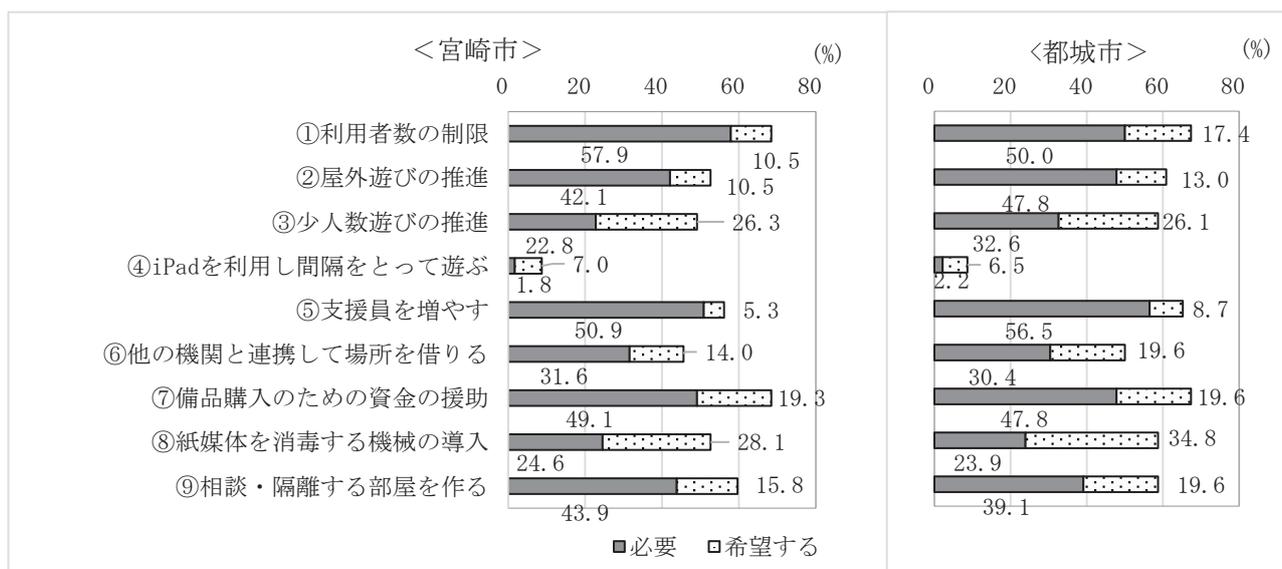


図6 今後必要なこと

#### 4. 考察

今回の調査では、宮崎県内2市のコロナ禍における放課後児童クラブの現状や課題について検討した。第一回緊急事態宣言(2020年3月)発出による学校休校の下、多くの自治体が「保護者への利用自粛要請」や「原則休所」の中、宮崎県内では「原則開所」とし、1クラスあたりの児童数の基準「おおむね40人以下」は全体の約3割に留まり、大人数のクラブも多かったが、いずれのクラブにおいても活動の工夫や支援員の方々のご尽力により運営がなされていたことが明らかとなった。各種活動や行事の実施状況は、「①お弁当」や「②おやつ」など子どもたちの生活の基盤となるものについては継続して実施されていた。「③工作活動」、「④レクリエーション」など子どもたちの楽しみとなる活動については、「中止したこともあった」割合が他の項目と比較して高かったが、凡そ継続されていた。「⑥遠足」、「⑦お誕生会」、「⑧対面式やお別れ会」などの行事については、宮崎市では「もともと行っていない」割合が高かったが、都城市では、「中止したこともあった」と「継続している」を併せると、約6割のクラブで行われていた(図2)。この地域差については、クラブあたりの入所児童数の違いや感染状況の違いによるものと推測されるが、今回の調査では詳細な分析には至らなかった。そして、これらの各種活動・行事を遂行するための工夫が窺えた(表2)。「屋外でのレクリエーションを増やす」、「一人遊びができるおもちゃを増やす」など、子どもたちの蜜を避け、体力を維持する工夫がみられた。また、秋武らは、おやつ役割について指導員の方や保護者の方は、「楽し

い時間の共有」や「気分転換や休息」といった精神的役割や「友達との共同を学ぶ」など人とのつながりを持った教育的役割を重視していることを報告しているが<sup>10</sup>、コロナ禍では黙食への対応として音楽を流す、好きなお菓子をを用意するなど、食環境や子どもたちの嗜好への配慮などの工夫を凝らして運営されていた。しかしながら、「子どもたちの様子」としては、「①イライラしている子」、「②眠そうだるそうな子」、「③集中力が続かない子」が「少し増えた」、「増えた」とする回答が約3割にみられ、ひいてはこれらのことが「子ども同士のトラブル」の増加に繋がるものと思われる。今回は支援員の方の視点からの回答であったが、子ども達に直接ストレス状態について問えば、国立生育医療研究センターのコロナ×子どもアンケート結果同様<sup>6,7)</sup>、多くの子ども達がコロナ禍で何らかのストレスを抱えていることが推察され、学校や専門家との連携による子ども達のメンタルケアが必要であると思われる。

今回のアンケート調査で「これからの With コロナ時代に児童クラブで取り組みたいこと」についての自由回答では、「コロナ禍で子どもはいろいろな制限下で頑張っているなのでその様子を褒めてあげたい」、「子ども達ができなくなってしまうことがないようにしていきたい」など、支援員の方々の子どものことを気遣う思いが述べられていた。「支援員の不足」や「長時間労働」、「資金の援助」などの政策的に解決すべき課題も多いが、今後も学校、地域と連携して子ども達の居場所としての機能が充実していくことを期待する。

## 謝 辞

本研究の遂行にあたり、アンケートとインタビュー調査の実施にご協力いただきました、宮崎市と都城市の放課後児童クラブの支援員の方々、宮崎市生涯学習支援課、都城市保育課の皆様に心から御礼申し上げます。

## 5. 文 献

- 1) 内閣府・文部科学省・厚生労働省：子ども・子育て関連3法について．<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/law/kodomo3houan/pdf/s-about.pdf>. (2013).
- 2) 厚生労働省：新・放課後子ども総合プラン．<https://www.mhlw.go.jp/content/11906000/shiryou.pdf>. (2018).
- 3) 厚生労働省：令和2年（2020年）放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の実施状況．<https://www.mhlw.go.jp/content/11921000/000708397.pdf>（2022年10月20日最終閲覧）. (2020).
- 4) 宮崎日日新聞：学童保育 自粛要請64% 宮崎市は「原則開所」. (2020年4月27日).
- 5) 全国学童保育連絡協議会：2021年度放課後児童クラブ実施状況調査結果．<http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou/fact-finding/index.html>（2022年10月20日最終閲覧）. (2021).
- 6) 国立研究開発法人国立成育医療研究センター：コロナ×子どもアンケート第1回調査報告書．[https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19\\_kodomo/report/](https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/report/)（2022年10月20日最終閲覧）. (2020).
- 7) 国立研究開発法人国立生育医療研究センター：コロナ×子どもアンケート第6回調査報告書．[https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19\\_kodomo/report/](https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/report/)（2022年10月20日最終閲覧）. (2021).
- 8) 宮崎県：令和3年度版「地域子ども・子育て支援事業実施状況」．<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kodomo-seisaku/kenko/kodomo/20211115133445.html>（2022年1月20日閲覧）. (2021).

- 9) スポーツ庁：令和3年度全国体力・運動能力，運動習慣等調査結果，  
[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/toukei/kodomo/zencyo/1411922\\_00003.html](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/kodomo/zencyo/1411922_00003.html)  
(2022年10月20日最終閲覧)。(2021)
- 10) 秋武由子，岡俊江，小笹治美，鈴木佐代，豊増美喜：放課後児童クラブの生活環境整備に関する研究  
その2 北九州市の放課後児童クラブにおけるおやつ の現状と課題．福岡教育大学紀要．第五分冊，芸術・  
保健体育・家政科編 60: 207-213. (2011).

(2022年10月24日受理)